

2023年1月26日

報道関係各位

株式会社 OKB総研

「物価上昇と節約意識」アンケート結果について

OKBグループのシンクタンク株式会社 OKB総研(大垣市郭町2-25 社長 青木義実)は、
標題のアンケートの結果をとりまとめましたのでご紹介します。

《要約》

1. 主婦の8割強が物価上昇により家計が「厳しい」
2. 値段が上がって特に困っている品目は「野菜・果物」
食料品以外では「ガソリン・灯油」
3. 主婦の9割弱が物価上昇により節約意識が「高まった」
4. 節約度合いが最も高いのは「衣料費」
次いで「外食費」、「食費」
5. 節約のための工夫は
「ポイント・クーポン・割引券等を活用する」

【調査概要】

1. 調査期間：2022年11月14日～11月18日
2. 調査方法：OKB大垣共立銀行本支店（東京・大阪を除く）に来訪した主婦^(注)805名に
アンケート用紙を配布・回収（無記名方式）
3. 有効回答者数：778名（有効回答率 96.6%）
4. 回答者属性：

年代	20歳代	6.7%
	30歳代	20.5%
	40歳代	24.8%
	50歳代	29.7%
	60歳以上	18.3%
住所	岐阜県	53.0%
	愛知県	42.2%
	三重県	2.3%
	滋賀県	2.1%
	その他	0.4%
就業 形態	専業主婦	7.5%
	正社員・公務員・自営業	46.8%
	パートタイマー	42.8%
	内職・その他	2.9%

5. 集計結果表記：数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。

(注) 本調査における「主婦」とは、既婚の女性で子どもの有無や就業形態は問わない。

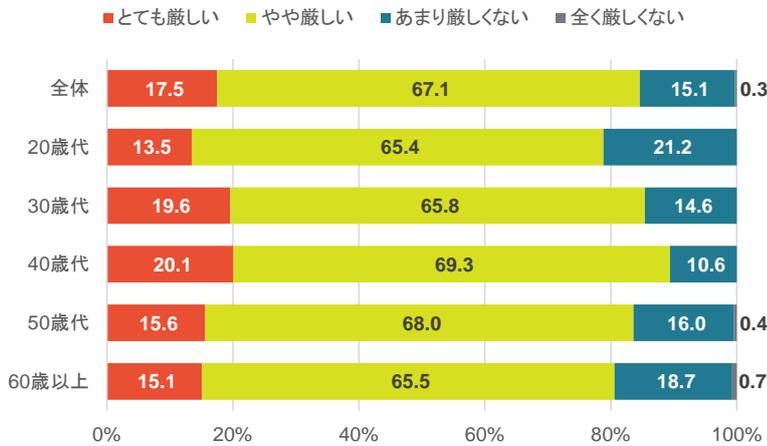
※調査結果詳細については次頁以降をご参照下さい。

資料配布場所：名古屋証券取引所・金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ
【本件に関する問合せ先：OKB総研 調査部 梅木 TEL 0584-74-2615 FAX 0584-74-2688】

1. 物価上昇について

(1) 物価上昇による家計への影響

図表 1 物価上昇による家計への影響(年代別)



「昨今の物価上昇による、家計への影響はどれくらいですか」と尋ねたところ、「とても厳しい」が17.5%、「やや厳しい」が67.1%、「あまり厳しくない」が15.1%、「全く厳しくない」が0.3%となった。「とても厳しい」と「やや厳しい」を合わせた“厳しい”は84.6%となった。

年代別に見ると、全ての年代で7割以上が“厳しい”と回答した。“厳しい”が最も高いのは40歳代(89.4%)だった(図表1)。

(2) 物価上昇による家計への具体的な影響

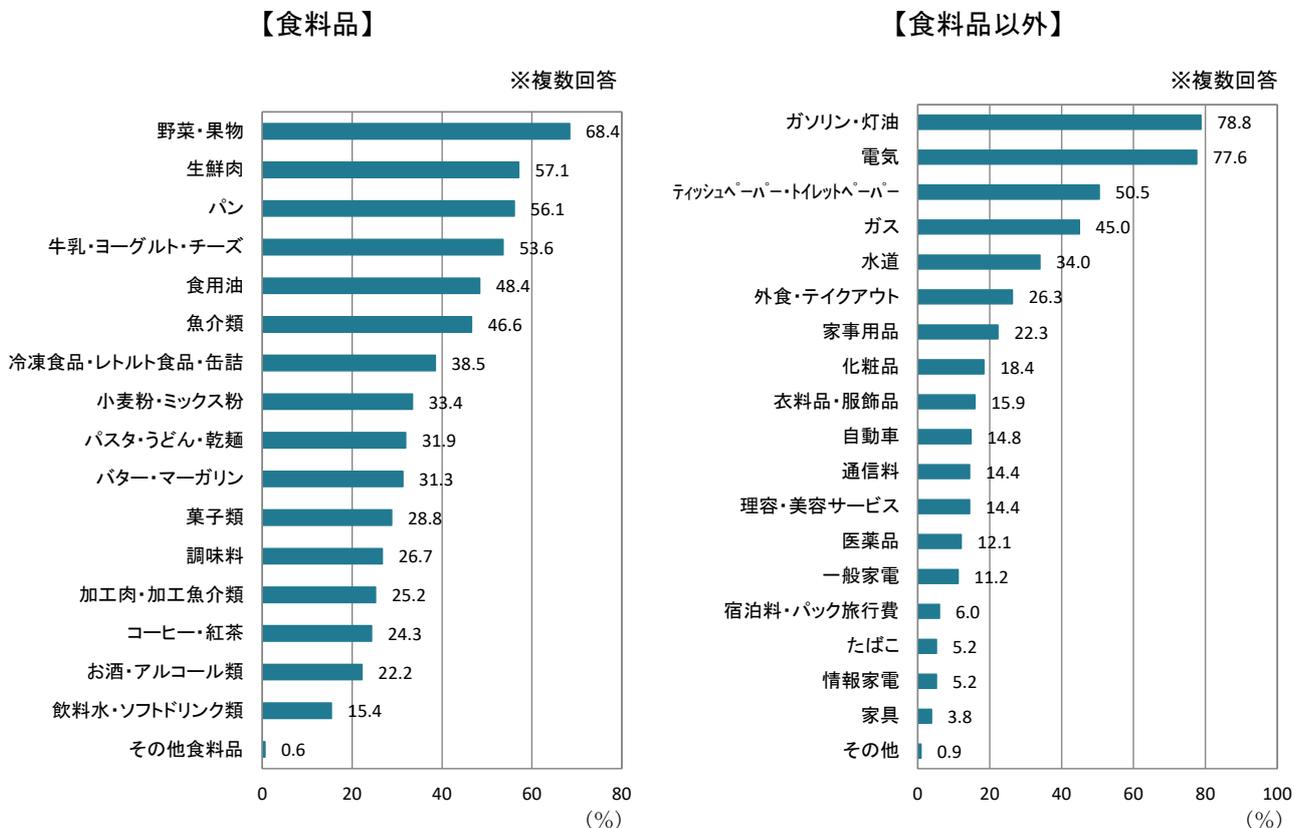
「物価上昇により、あなたの家計には具体的にどのような影響がありましたか(自由回答)」と尋ねたところ、以下のような回答が寄せられた。「割安なものを買うようになった」という声が目立ち、低価格志向の強まりがみとれる。また、「買う量を減らした」「必要なものしか買わなくなった」といった声も多く、買い控えの動きもみられる。

物価上昇による家計への具体的な影響(一部抜粋)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 割安なものを買うようになった。 ・ 割引商品を選んで買うようになった。 ・ 特売日に買うようになった。 ・ 夕方に買い物に行き、値下げされた商品を購入する。 ・ 割引シールのものをよく買うようになった。 ・ ポイントやクーポンなどの利用を考えて買い物するようになった。 ・ 買う量を減らした。 ・ 買い物に行く回数を減らした。 ・ 高いものは買わなくなった。 ・ 必要なものしか買わなくなった。 ・ 買い置きを減らした。 ・ プライベートブランドを買うようになった。 ・ 安い時にまとめ買いするようになった。 ・ 安く購入出来る店に行くようになった。 ・ 新聞の折込広告をみるようになった。 ・ 近場の店で購入するよう心がけ、ガソリン代を減らす。 ・ なるべく国産のものを買うようにしていたが、気にせず安い方を買うようになった。 ・ 品質重視をあきらめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食費が増えた。 ・ 食事のメニューが1品減った。 ・ 朝食のパンをごはんにした。 ・ 嗜好品を減らした。 ・ お菓子等をなるべく買わないようになった。 ・ ネットで買うようにした。ガソリン代がかからないし、ネットの方が安いので。 ・ 外食を減らした。 ・ 旅行に行かなくなった。 ・ 外出を控えるようになった。 ・ お金のかかる所には行かず、公園などに行くようにした。 ・ 子どもたちにも我慢してもらうことが増えた。 ・ 衣料品等の購入が減った。 ・ 美容院へ行く回数を減らした。 ・ 節電・節水にこれまで以上に気を使う。 ・ 電気をこまめに消すよう努めている。 ・ 自宅で野菜を作る。 ・ 貯金が減った。 ・ 車の買い替えを先延ばしにした。 ・ 余分に契約していた保険などを整理した。 ・ 通信料を格安プランに変更した。

(3) 値段が上がって特に困っている品目

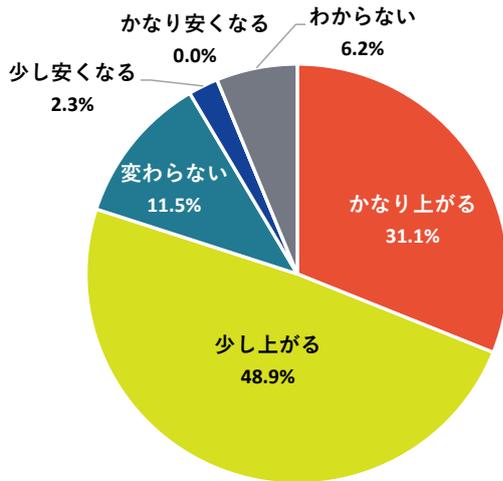
「値段が上がって特に困っている品目は何か（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、食料品では「野菜・果物」が68.4%、次いで「生鮮肉」が57.1%、「パン」が56.1%となった。食料品以外では「ガソリン・灯油」が78.8%、次いで「電気」が77.6%、「ティッシュペーパー・トイレトペーパー」が50.5%となった（図表2）。

図表2 値段が上がって特に困っている品目(全体)



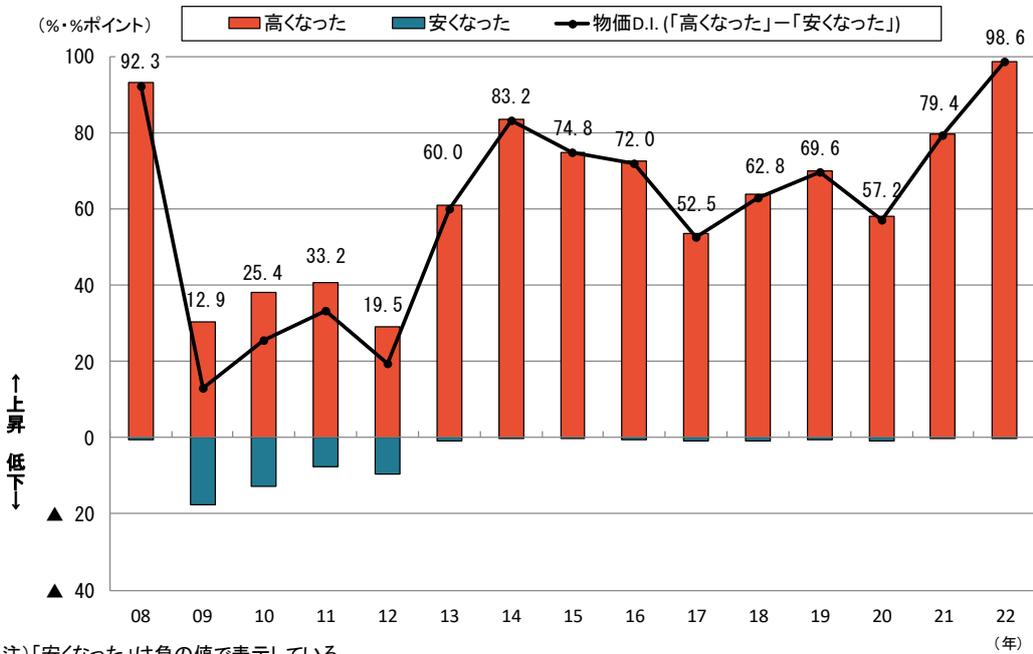
(4) 1年後の物価

図表3 1年後の物価



「1年後の物価は現在と比べてどうなっていると思いますか」と尋ねたところ、「かなり上がる」が31.1%、「少し上がる」が48.9%、「変わらない」が11.5%、「少し安くなる」が2.3%、「かなり安くなる」が0.0%だった。「かなり上がる」と「少し上がる」を合わせた“上がる”は80.0%となった(図表3)。

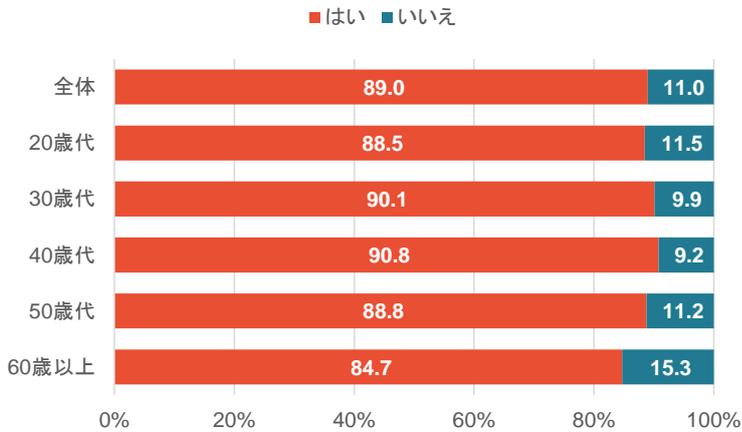
【参考】主婦の物価D.I.の推移



2. 節約意識について

(1) 節約意識の変化

図表 4 節約意識は高まったか(年代別)



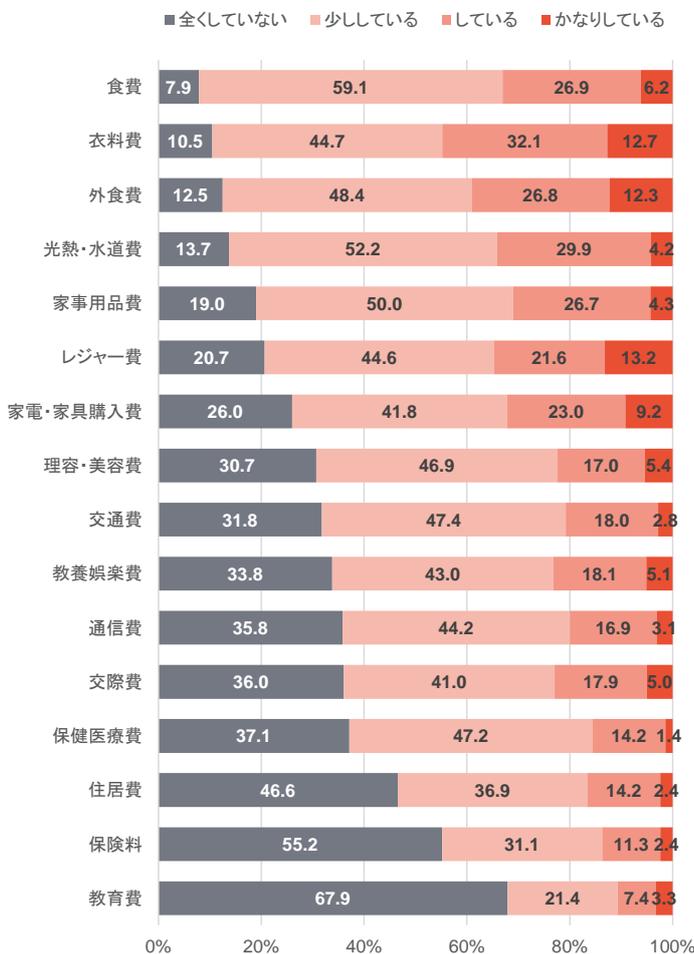
「物価上昇により、節約意識は高まりましたか」と尋ねたところ、「はい」は89.0%を占めた。

年代別に見ると、全ての年代で「はい」が8割超となった。「はい」が最も高いのは40歳代(90.8%)だった(図表4)。

(2) 各費目の節約度合い

「各費目について、節約の度合いを4段階でお答えください」と尋ねたところ、「少ししている」「している」「かなりしている」を合わせた“している”が最も高いのは「食費」で92.2%だった。16費目中14費目で“している”が5割を超えた。「全くしていない」が最も高いのは「教育費」(67.9%)だった(図表5)。

図表 5 各費目の節約度合い4段階(全体)



下記の式を用いて各費目の節約度合いを数値化したところ、トップは「衣料費」で1.47、次いで「外食費」が1.39、「食費」が1.31となった。

年代別に見ると、20歳代を除く全ての年代で「衣料費」が最も高くなった。20歳代は「食費」が最も高く、40歳代は「外食費」が「衣料費」と同率で最も高くなった。各費目について40歳以上は全体よりも高い傾向が見られ、特に50歳代は「教育費」を除く全ての費目が全体よりも高く、16費目中11費目について他の年代に比べ最も高くなっている。一方、20歳代や30歳代は全体よりも低い傾向が見られ、特に20歳代は9費目について他の年代に比べ最も低くなっている。

また、上位の費目を見ると、「衣料費」や「外食費」、「レジャー費」などは年代が高いほど節約度合いが高い（図表6）。

各費目の節約度合い 計算式

選択肢	点数
全くしていない	0
少している	1
している	2
かなりしている	3

$$\text{節約度合い} = \frac{(\text{「全くしていない」} \times 0 \text{点}) + (\text{「少している」} \times 1 \text{点}) + (\text{「している」} \times 2 \text{点}) + (\text{「かなりしている」} \times 3 \text{点})}{\text{回答者数}}$$

図表6 各費目の節約度合い(年代別)

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
衣料費	1.47	1.23	1.40	1.41	1.57	1.55
外食費	1.39	1.21	1.28	1.41	1.48	1.36
食費	1.31	1.44	1.30	1.23	1.43	1.17
レジャー費	1.27	0.92	1.10	1.34	1.35	1.37
光熱・水道費	1.25	1.10	1.08	1.17	1.43	1.25
家事用品費	1.16	0.94	1.06	1.17	1.29	1.13
家電・家具購入費	1.15	0.92	0.94	1.15	1.26	1.31
理容・美容費	0.97	0.77	0.96	1.00	1.03	0.90
教養娯楽費	0.94	0.67	0.77	0.95	1.07	1.02
交際費	0.92	0.63	0.78	1.04	0.99	0.90
交通費	0.92	0.88	0.84	0.83	1.00	0.95
通信費	0.87	0.81	0.77	0.87	0.97	0.84
保健医療費	0.80	0.79	0.71	0.77	0.90	0.77
住居費	0.72	0.50	0.39	0.75	0.89	0.88
保険料	0.61	0.61	0.49	0.57	0.68	0.67
教育費	0.46	0.34	0.39	0.49	0.46	0.58

□:各年代で最も高いもの
 ■:全体より高いもの
 ■:全体より低いもの
 赤字:各費目で最も高いもの
 青字:各費目で最も低いもの

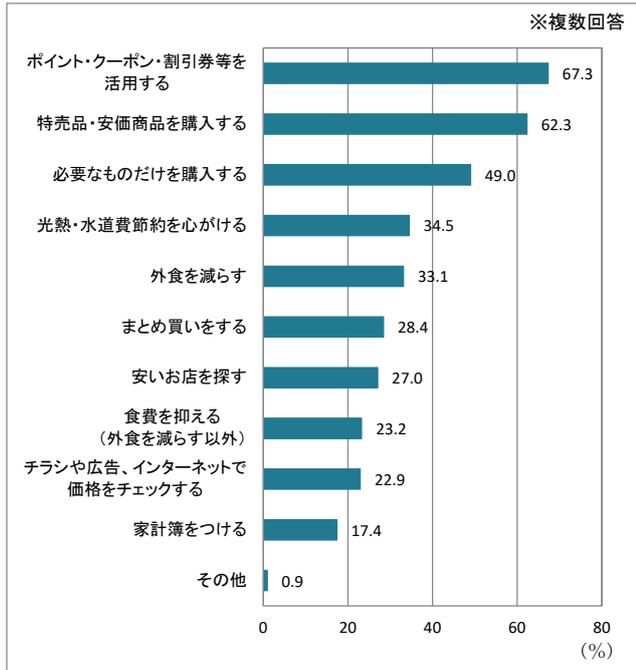
(注)小数点第3位を四捨五入。

(3) 節約のための工夫

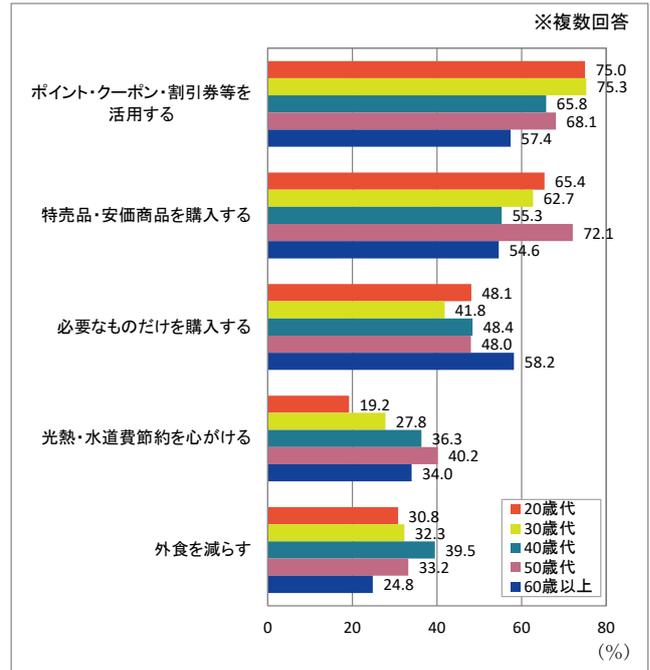
「節約のために工夫していることは何ですか（あてはまるもの全て選択）」と尋ねたところ、「ポイント・クーポン・割引券等を活用する」が67.3%でトップ、次いで「特売品・安価商品を購入する」が62.3%、「必要なものだけを購入する」が49.0%となった（図表7）。

年代別に見ると、20歳代と30歳代、40歳代は「ポイント・クーポン・割引券等を活用する」、50歳代は「特売品・安価商品を購入する」、60歳以上は「必要なものだけを購入する」がそれぞれ最も高くなった（図表8）。

図表7 節約のために工夫していること(全体)



図表8 節約のために工夫していること(上位5項目、年代別)



以上